

- 開催日時
令和5年9月14日(木) 9時30分から12時00分まで
- 開催場所
市民総合交流センター(キラリエ草津) 402会議室
- 出席委員
乾委員長、土山副委員長、森田委員、四方委員、出呂町委員、布施委員、佐藤委員
- 欠席委員
中谷委員、斎藤委員、喜田委員
- 事務局
まちづくり協働課: 西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、中西職員、山元主査
健康福祉政策課: 吉川課長補佐
- 中間支援組織
草津市コミュニティ事業団 栗田主事
草津市社会福祉協議会 秋吉課長、青木副参事
- 協働コーディネーター
阿部氏、仲野氏

- 第2回委員会の内容
協働と市民参加の現状把握として、行政・市民・審議会等がどのように関わっているか、相関図を作ってみようというワークショップを3班に分かれて行った。

- [A班]
乾委員長、森田委員、佐藤委員、青木副参事、栗田主事、阿部氏、西山課長
- [B班]
土山副委員長、四方委員、出呂町委員、布施委員、秋吉課長、坂居課長補佐
- [C班(行政グループ)]
仲野氏、吉川課長補佐、藤原係長、中西職員、山元主査

【A班・B班】

- ・市民から見てどこが何をしているのかわからない。
- ・どこに相談していいのかわからない。
- ・中間支援組織も重要な役割を担ってくれているが、元々つながりがない市民からは何をサポートしてもらえるかわからない。
- ・主体がたくさんあるので、福祉や防災の取組みも縦割りで連携しているように見えない。

⇒キーワードは「見える」

- ・それぞれの主体の役割や取組みを相互に理解する
- ・各主体が行う活動や対象のつながりや重なりを実感する
- ・お互いのことが見えると新たなつながりや重なりが生まれる

【C班(行政グループ)】

- ・横の連携が出来ていない
(セクショナリズム、風通しの悪さ、業務外への無関心さ等)
- ・地域に入って関係をつくることへの苦手意識
- ・協働することのメリットが見えない
(協働が手続きになってしまっている)
- ・結果、組織外とのつながりもできない

⇒キーワードは「つながる」

- ・草津市としてのゴールを共通認識する
- ・担当業務以外への関心をもつ
- ・協働することへのメリットを実感する



第2次計画では「学ぶ」「見える」「つながる」をコンセプトとしてきたが『見える』『つながる』に課題が見受けられる